

Agri Note 菜園

アグリノート菜園情報

JA福井県

朝夕の風に、秋の到来を感じる今日このごろ、里芋の収穫シーズンとなりました。今回は、秋の味覚である里芋の栽培についてです。異常気象での里芋栽培で最も重要なのは水管理です。特に水管理と里芋疫病にスポットを当てて紹介します。

1. 里芋栽培

近年、7～8月にかけて、高温乾燥条件になることが多く、里芋の収量、品質に大きく影響します。積極的な畝間灌水を行い、高品質、高収量を目指しましょう。

4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月		
上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下

圃場準備

定植

栽培管理

収穫

異常気象に対応した栽培管理のポイント

①圃場準備

排水が良好で積極的に灌水の出来る圃場を選びましょう。額縁排水溝を施工し、排水対策を徹底しましょう。

②定植

適期に定植し、初期生育を十分に確保し、写真1のように8月中旬以降は肥効を切らせて芋の肥大を促進させることが重要です。そのため、定植時期が遅くなりすぎないようにしましょう(4月1日～10日定植で高収量、大粒傾向)。

③栽培管理

乾燥が続くと写真2のような水枯れ症状が出ます。少雨の場合、6月から灌水開始し、梅雨明け以降は3～7日おきで灌水します。灌水間隔が短い方が収量向上効果が高まります。7月以降は特に多くの水を必要とします。8月中旬までは1株あたりの芋数に、8月中旬以降は芋の肥大に影響します。病害虫防除により、葉を4枚以上維持しましょう。



写真1 子芋・孫芋肥大期



写真2 水枯れの症状



2. 疫病対策

里芋疫病とは: 例年7月中旬頃に発生します。葉とズイキに病斑が生じ、最後はズイキが倒伏します。里芋疫病が蔓延すると生産量が激減し、産地の存続も危ぶまれると言われるほど危険な病害です。疫病の蔓延を防ぐため疫病対策を行いましょう。

疫病対策のポイント

- ① 「ベンレート水和剤20」による種芋消毒をしましょう。
- ② 6月下旬、7月中旬という決められた期間により多くの圃場で予防的な一斉防除を行いましょう。
1回目 6月下旬 ダイナモ顆粒水和剤
2回目 7月中旬 アミスター20フロアブル
- ③ 発生後は早急に治療防除を行いましょう。
治療剤 アミスター20フロアブル、ダイナモ顆粒水和剤



3. 収穫

例年10月上旬から多くの圃場で収穫が始まります。頭芋を傷つけないようズイキを切り取りましょう。8月下旬から9月上旬になっても新葉の伸長が旺盛な場合は収穫を遅らせましょう。

収穫した里芋